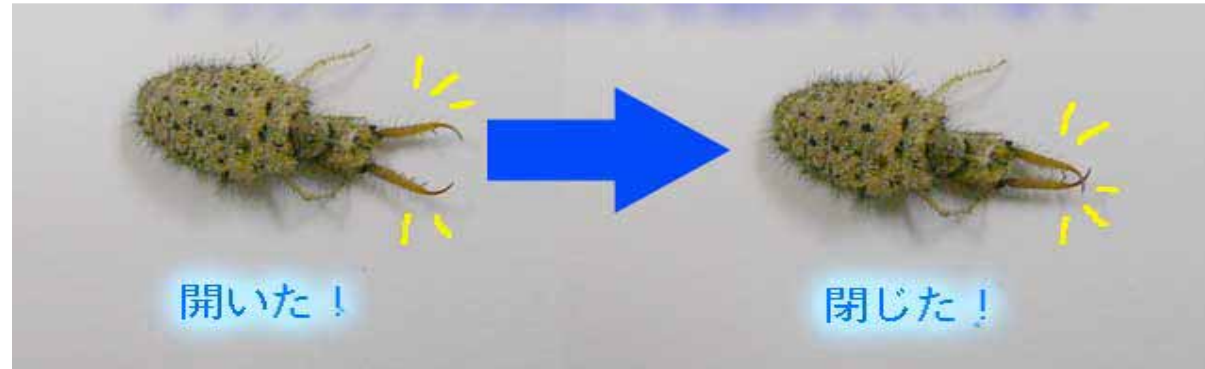


アリジゴクの捕まえ方 (= 遊び方)



- 指先や枝で巣穴の中心をほじる
- 唾をたらして、アリジゴクを砂ごと固める
- 松葉の先にアリの突き刺したり、糸で結んだりして巣穴の底に垂らし、釣り上げる
- 大声を出したり、歌をうたったり、息をはきかける
(スダメッコ スダメッコ おきて ままけーは フーッ！)

アリジゴクの呼び名の多様性、遊び方の多様性が意味すること

- 私たちの生活に身近な存在である
- 北海道～鹿児島までの広い地域で親しまれてきた
- 形態や行動が面白く、子どもたちに強烈なインパクトを与える

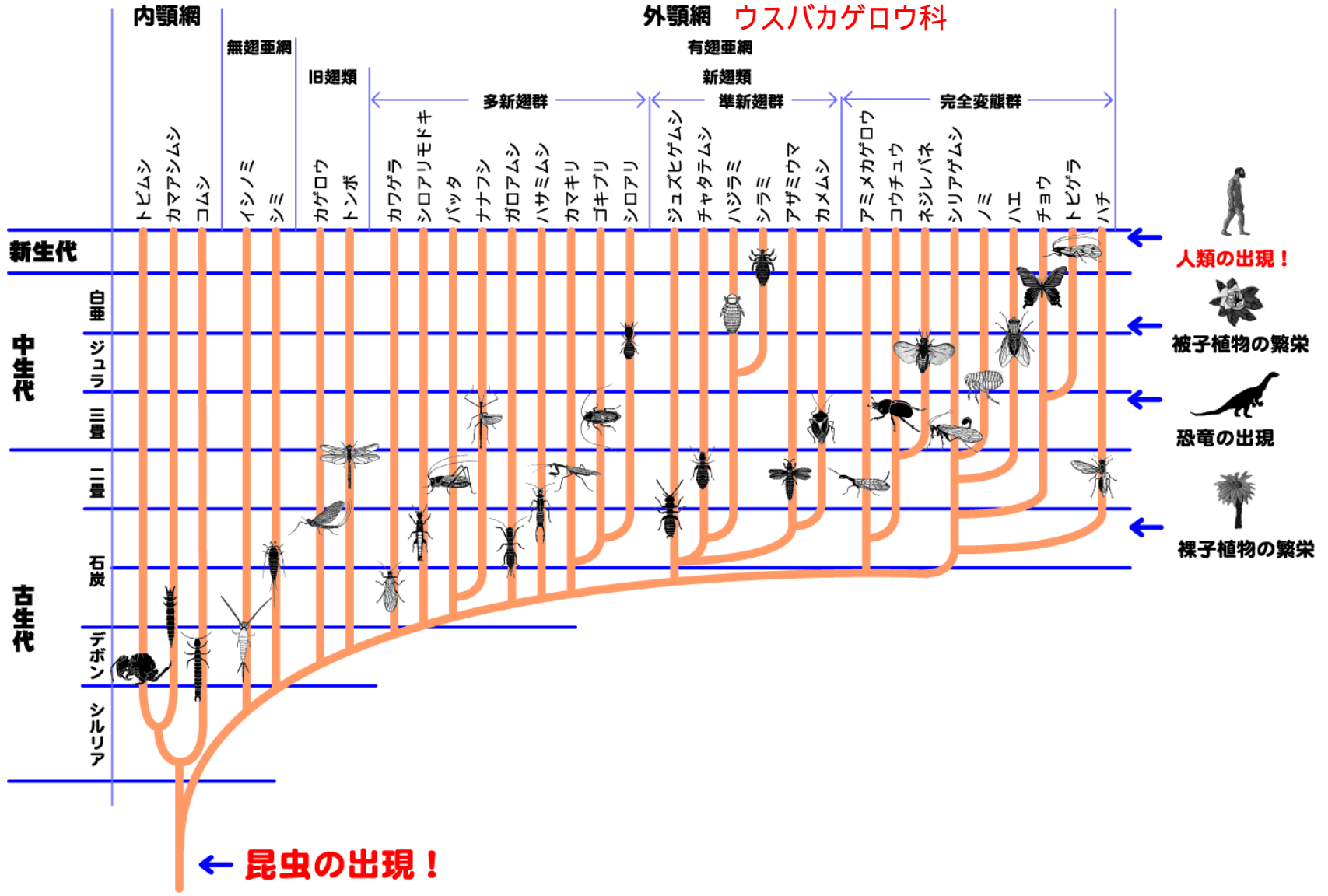
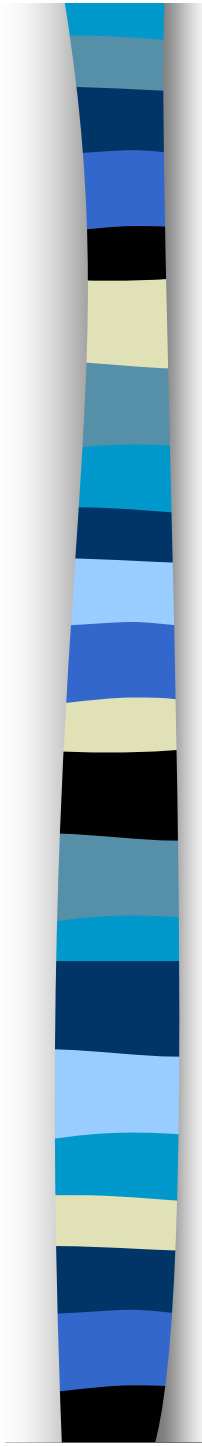
アリジゴクは”エデュテインメント”
教材として卓越した存在である！



アリジゴクとは？



アミメカゲロウ目(脈翅目)ウスバカゲロウ科の幼虫



造巢性アリジゴク5種の識別点



クロコウスバカゲロウ



ウスバカゲロウ



ハマベウスバカゲロウ



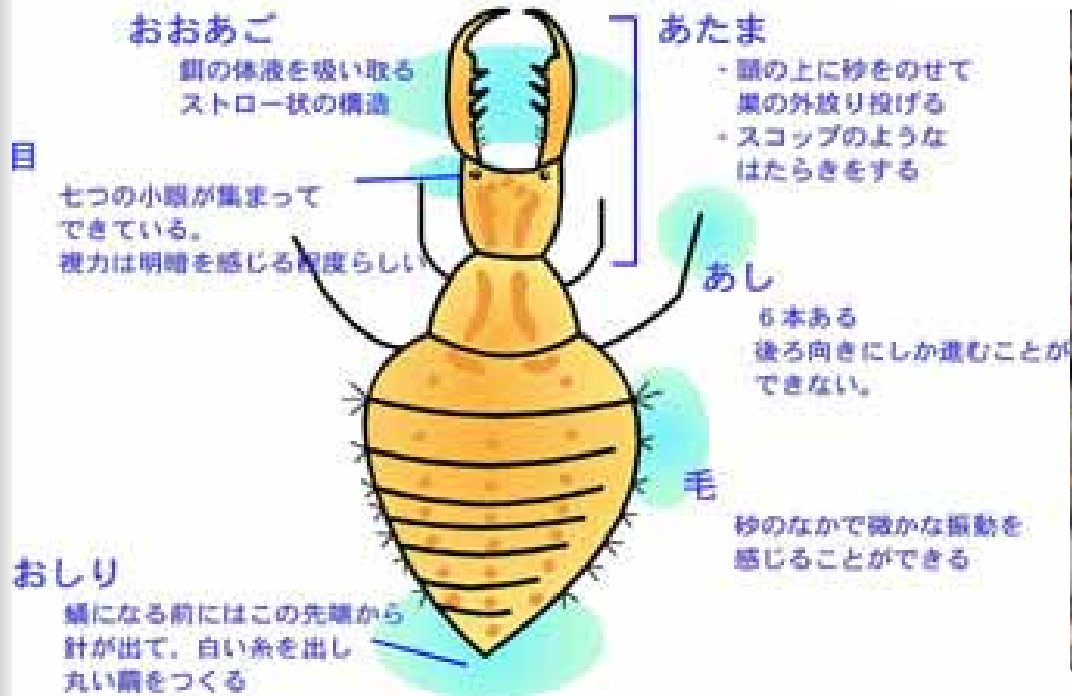
コウスバカゲロウ



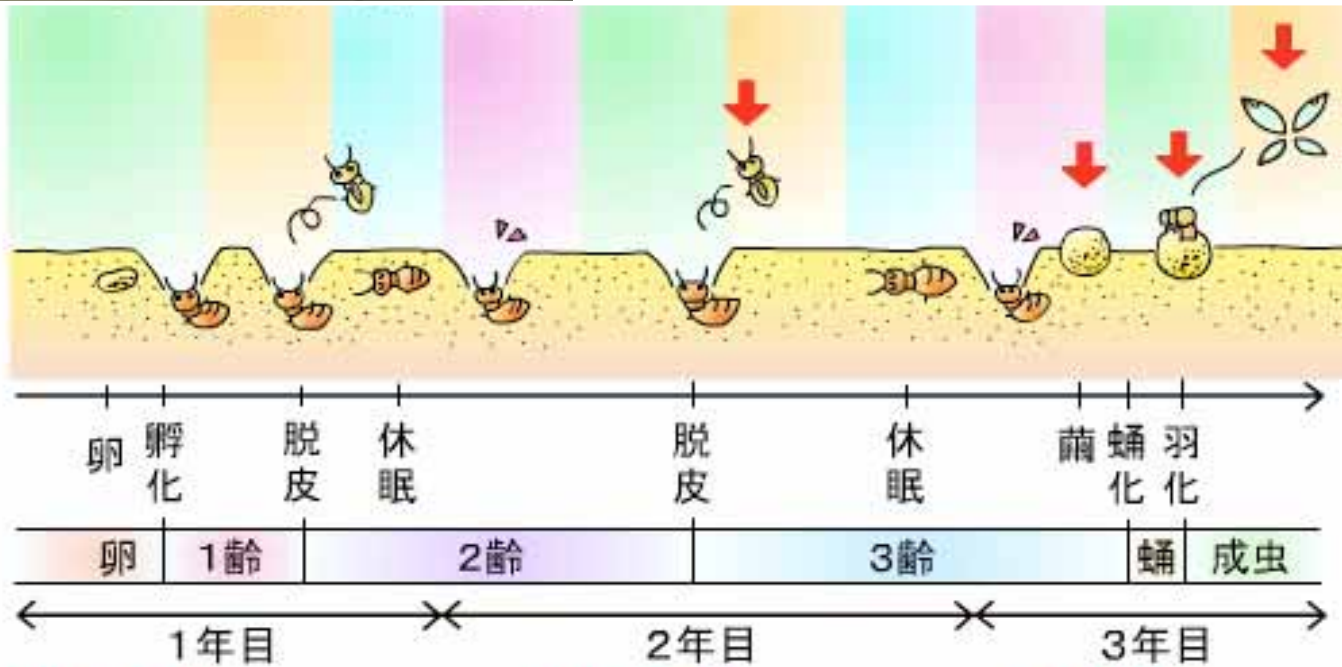
ミナミハマベウスバカゲロウ(?)

アリジゴクの体のつくり

〈アリジゴクの体のつくり〉



ウスバカゲロウの生活史





アリジゴクの教材としての利点

- (1) 野外での採集 & 室内での飼育がカンタン
(巣穴を見つけやすい、3ヶ月間エサをやらなくてもOK)
- (2) 行動や生態がムチャクチャ面白い
(巣穴作り、捕食行動、繭作り、ため糞など)
- (3) 天候に影響されずに観察会が実施可能
(雨水に濡れない場所に巣穴を作るから)



アリジゴクの教材としての欠点

- (1) 体サイズが小さすぎて、子どもには観察が難しい
観察で使う道具の工夫
- (2) 卵から成虫になるまでに2～3年かかる種もいる
恒温室で世代交代を早める試み
- (3) 成虫の飼育や生態観察が難しい
飼育法の確立

アリジゴク教材化への取り組み

- (1) 簡単にできる飼育法の確立
- (2) 簡単にできる観察法の確立
- (3) 野外観察プログラムの実践



